

令和6年度進行管理・評価シート
新庄市歴史的風致維持向上計画（令和5年2月15日認定）
（最終変更 令和6年5月31日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 歴史的風致維持向上計画推進体制		1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 重点区域における良好な景観を形成する施策		2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 新庄藩主戸沢家墓所(瑞雲院)維持管理事業		3
2 戸沢家墓所(桂嶽寺)保存補修事業		4
3 旧農林省積雪地方農村経済調査所 (登録有形文化財)保存修理事業		5
4 最上公園(新庄城址)修景整備事業		6
5 旧農林省蚕糸試験場新庄支場周辺地域整備事業		7
6 新庄まつり振興事業		8
7 文化財等保存団体支援事業		9
8 無形民俗文化財等調査記録情報発信事業		10
9 新庄開府400年記念事業		11
10 小中学生の歴史学習推進事業		12
11 地域の歴史・文化生涯学習推進事業		13
12 城下町周遊まち歩き推進事業		14
13 観光地環境美化推進事業		15
14 歴史案内人養成事業		16
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の保存、文化財の修理事業		17
2 文化財の周辺環境整備・防災に関する取り組み		18
3 文化財の普及啓発に関する取り組み		19
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 効果・影響等に関する報道 新聞、テレビ等の報道記録		20
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 市民の歴史的風致の認識向上		21
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)		22

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	令和6年度 現在の状況
歴史的風致維持向上計画推進体制		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容

- ・新庄市歴史的風致維持向上計画推進協議会を中心に、進捗管理・評価などの計画推進に係る事項や計画変更の協議などを行う。
- ・関係課で構成する庁内推進委員会や文化財の所有者・管理者、関係団体などとの連絡調整を行い、本計画の円滑な推進に努める。
- ・国や山形県との協議を行いながら助言や支援を得るとともに、必要に応じて、新庄市文化財保護審議会や新庄市都市計画審議会などへ報告し、助言を得る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

関係部署間で連携を図り、また、「新庄市歴史的風致維持向上計画推進協議会」において意見、助言等をいただきながら、計画を着実に進めている。

【庁内事務局会議】2回実施 【庁内推進委員会】2回実施

【新庄市歴史的風致維持向上計画推進協議会】2回実施

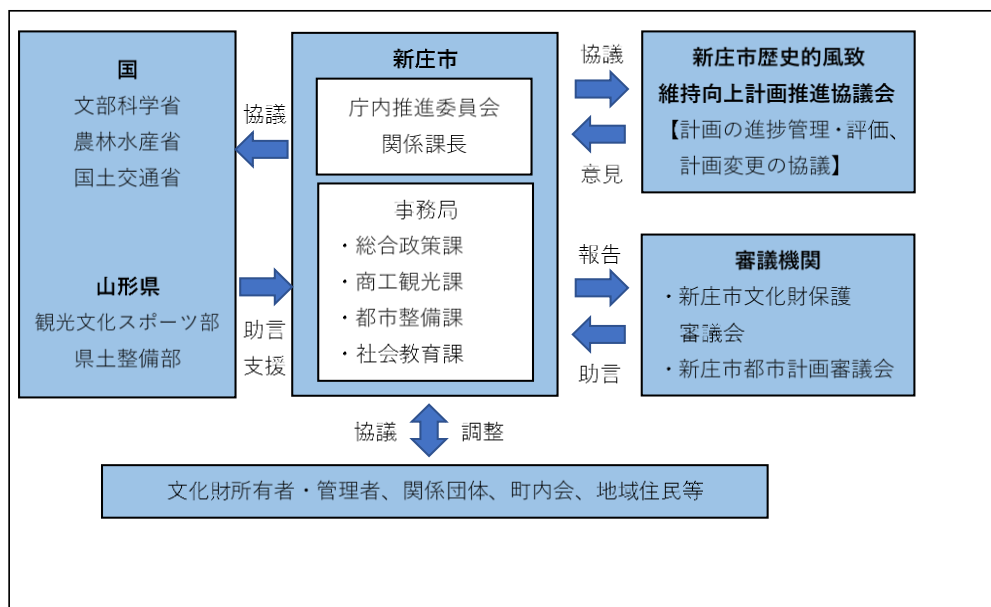
第1回協議会(令和6年7月13日):推進体制の確認/年間スケジュール/計画の進行管理/個別事業の確認

第2回協議会(令和7年2月24日):令和6年度事業報告/令和6年度進捗管理・評価の実施

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

【計画推進体制】



■新庄市歴史的風致維持向上計画推進協議会開催状況

(写真は第1回協議会(令和6年7月13日 新庄市民プラザにて開催))



評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
重点区域における良好な景観を形成する施策			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	現在の街なみは、人口減少社会の進展や郊外の宅地開発などの影響で、市内中心部は空き家や空き店舗が増加している。中心市街地の空洞化が進展し、街なみの維持に様々な課題が生じてきている。都市計画事業と本計画における取り組みが連携し、相乗効果が生み出されるよう事業に取り組んでいく。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和6年度、用途地域の見直しと、「立地適正化計画」の策定を進めている。パブリックコメントの募集、市民説明会は完了し、令和6年度内には決定される見込みである。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		立地適正化計画や用途地域の見直しが決定されれば、今後は景観まちづくりを推進するための景観計画策定を推進する。市民の理解が得られるよう、丁寧な提案と説明が必要となってくる。	
状況を示す写真や資料等			
【良好な景観を形成する施策の策定スケジュール】			
年度	項目	内容	
令和元年度	都市計画マスタープラン見直し	質の高い都市機能と快適性・利便性に秀でた居住空間を確保し、都市のにぎわいや文化的な生活、自然の豊かさや雪とともにある暮らしを味わい楽しむことができる都市計画の指針として策定。	
令和4～6年度	立地適正化計画の策定	都市計画マスタープランに基づき、まちなかに人を誘導することで人口減少や少子高齢化の中でも持続可能な都市づくりを目指す。令和6年度策定。	
令和5～6年度	用途地域見直し	令和4年度に実施した基礎調査結果を基に、令和6年度見直しを行った。	
令和7～12年度	景観計画の策定	本市の良好な景観形成に向けた景観まちづくりを推進するため、景観法に基づく景観行政団体に移行し、景観計画の策定を行う。	

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度 現在の状況
新庄藩主戸沢家墓所(瑞雲院)維持管理事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和5年度～令和14年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 瑞雲院にある国の史跡・新庄藩主戸沢家墓所(御霊屋)は、令和3年度まで大規模な保存修理が終了しているが、今後は、補修や差し萱などの措置を施すなど経年の劣化に随時対応するとともに適切な維持管理を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

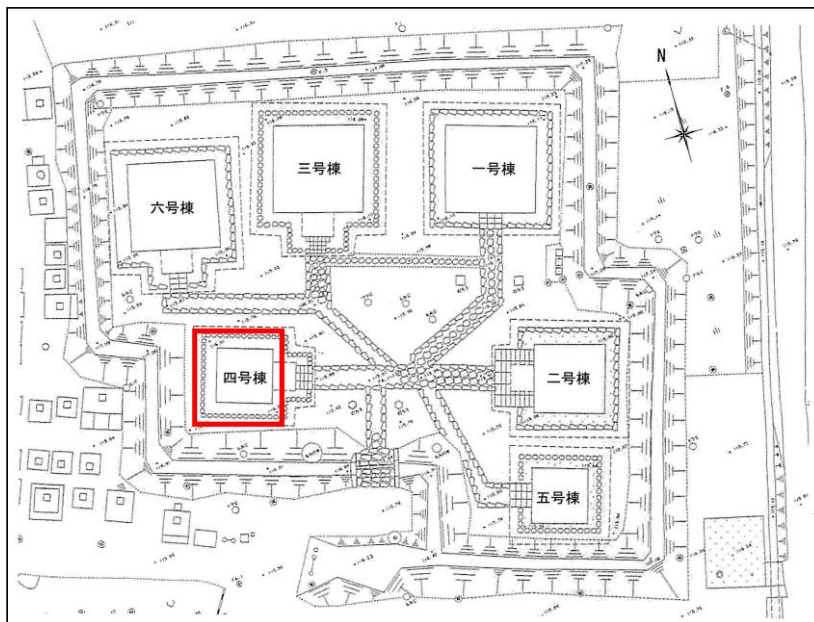
令和6年度は、4号棟の屋根東面及び南面の差し萱修繕を実施した。(7月31日完了)
令和5年度に不具合が判明した屋外消火設備については、修繕実施に向けて引き続き県や文化庁へ予算確保のための相談と効果的な手法の検討を進めている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	保存修理工事から5年以上経過した御霊屋について順次差し萱修繕を実施する。また、設備老朽化や災害に伴う突発的な修繕に迅速に対応する必要がある。

状況を示す写真や資料等

■4号棟差し萱修繕(工期: 令和6年5月30日～令和6年7月31日)

○位置図



○写真 (左: 作業中 右: 完成)



評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度 現在の状況
新庄藩主戸沢家墓所(桂嶽寺)保存修理事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和6年度～令和7年度

支援事業名 国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(国)

計画に記載している内容 桂嶽寺にある国の史跡・新庄藩主戸沢家墓所(2代正誠)は、御霊屋の老朽化と参道の劣化が進んでいることから、建造物の保存修理と参道の整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和6年度は、保存修理工事(屋根の葺き替え)の実施設計を行った。

令和7年度に工事予定

参道については、今後あらためて文化庁、所有者等と別途協議のうえ対応方針を決定する。

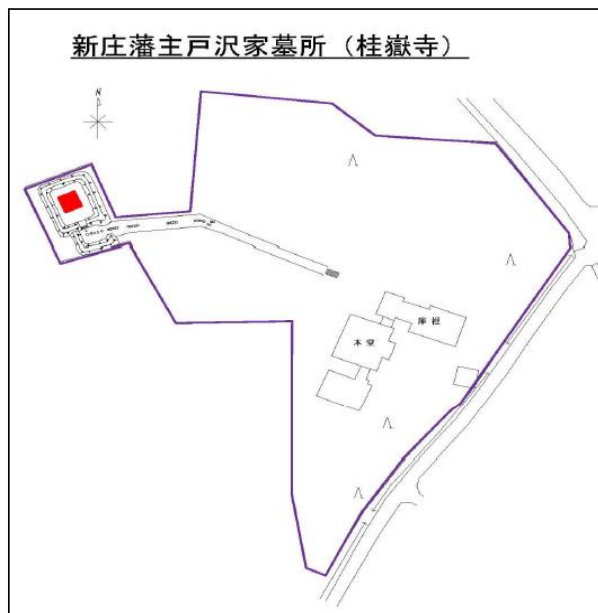
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	工事に要する予算の継続的な確保 参道整備にあたっては、事前の発掘調査が必要となるため、対応方針検討のうえ、作業体制の構築が必要となる。

状況を示す写真や資料等

■実施設計業務委託(令和6年10月25日～令和7年3月31日)

○位置図

○写真(上:現況(正面) 下:現地調査実施状況)



評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
旧農林省積雪地方農村経済調査所(登録有形文化財)保存修理事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和5年度～令和9年度		
支援事業名	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(国)		
計画に記載している内容	登録有形文化財(建造物)である旧農林省積雪地方農村経済調査所は、平成25年(2013)に実施した耐震診断において、倒壊する可能性が高いと診断されていることから、建造物の耐震補強とさらなる公開活用に向けた改修を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和5年度に完成した基本設計に基づき、令和6年度は実施設計を行う予定であった。 令和6年7月の豪雨災害により被災した新庄ふるさと歴史センターの収蔵品の一部(市指定有形民俗文化財「雪国の民具」)について、雪の里情報館での保管、展示公開ができないか検討する必要性が生じたため、事業スケジュールを変更することとした。 【今後の予定】 令和7年度 活用方針の決定 令和8年度 実施設計 令和9年度 改修工事			
進捗状況 ※計画年度との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	令和6年7月の豪雨災害により被災した新庄ふるさと歴史センター収蔵品の一部を雪の里情報館で保管、展示公開ができないか検討する必要性が生じている。 施設の活用計画について関係者と引き続き合意形成を図りながら進める。		
状況を示す写真や資料等			

■保存活用計画(令和5年3月策定)

■現況写真(正面・裏側)



評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
最上公園(新庄城址)修景整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和5年度～令和9年度		
支援事業名	市単独事業 / 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)		
計画に記載している内容	最上公園について、堀や土塁とともに表御門や隅櫓などの歴史的な面影を感じることができる城址公園としてふさわしい景観形成を目指す。さらに、周辺の公共施設と一体となった整備を図ることで都市公園としての機能を充実させる。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
「最上公園整備基本計画」を基に、最上公園内の駐車場整備を実施した。当該箇所については最上公園内の景観にあった施設となるよう設計・施工を目指した。景観形成のみにとどまらず、近隣公共施設への来客の満足度を向上させ、エリアの魅力向上を狙う。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	社会資本整備総合交付金の内示率が想定よりも低かったため、駐車場の整備エリアを縮小した。交付額により施工規模を調整する必要があり、予定どおりの整備ができない可能性があることは課題である。来年度以降も順次、整備を進めていく。		
状況を示す写真や資料等			
■駐車場整備(新庄ふるさと歴史センター)  ■駐車場整備(新庄ふるさと歴史センター)  ■施工箇所 			

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
旧農林省蚕糸試験場新庄支場周辺地域整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和5年度～令和9年度		
支援事業名	市単独事業 / 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)		
計画に記載している内容	旧農林省蚕糸試験場新庄支場への来訪者のさらなる利便性の向上のため、園内の通路や広場、駐車場、トイレ、休憩施設などの整備を行う。また、隣接する新庄藩主戸沢家墓所の駐車場整備など、地域内の周遊が促進されるよう一体的な整備を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和4年4月に策定した整備計画に基づき、令和7年度のオープンを目指し、国の登録有形文化財(建造物)「旧農林省蚕糸試験場新庄支場」を活用した道の駅の整備を進めた。			
【経過】			
令和4年度 ・用地測量実施 ・国と道の駅整備に係る協定書を締結(国市の一体型整備) ・事業用地取得			
令和5年度 ・設計業務実施 ・造成(盛土)工事实施 ・道の駅整備後の具体的な利活用の検討作業実施(各種事業の実証等)			
令和6年度 ・造成工事实施 ・水路流末工事实施 ・情報提供・休憩施設建設工事实施 ・「道の駅」登録認定			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	道の駅の開設に向け、建築工事、駐車場等工事に加え、国道や市道の改良工事を実施する。既存施設の運営等に配慮しながら、整備工事を進めていく必要がある。		
状況を示す写真や資料等			
■道の駅「新庄エコロジーガーデン原蚕の杜」全景(イメージパース図) 			
■道の駅「新庄エコロジーガーデン原蚕の杜」情報提供・休憩施設(イメージ図) 			

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度 現在の状況
新庄まつり振興事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 各事業開始年度～令和14年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 新庄まつり実行委員会及び新庄まつり山車行事保存会の運営を支援するとともに、山車製作若連や囃子若連に対し、保存継承に向けた施設整備や楽器などの修理、更新などに必要な経費の一部を補助する。また、新庄まつりの認識向上や観光交流の拡大に向けた広報宣伝や情報発信を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

<実行委員会・保存会等の運営支援>

新庄まつり実行委員会負担金 38,873,000円交付した。

新庄市山車資材保管施設整備補助金を1団体、237,353円交付した。(下金沢町若連)

新庄まつり囃子保存基盤整備補助金を3団体、700,630円交付した。(山屋・休場・福宮の囃子若連)

国指定重要無形民俗文化財「新庄まつりの山車行事」の保持団体に対し運営補助金を689,700円交付した。

新庄市コミュニティー助成事業による若連法被、物品の購入に対し、1団体 2,500,000円の助成を行った。(馬喰町若連)

<新庄まつり認識向上に向けた取り組み>

新庄まつりの歴史認識の学習機会創出のため、小中学生などを対象とした新庄まつりに関する出前講座を実施した。(市内3校)

また、今年度新たに開学した東北農林専門職大学でまつりの歴史や概要説明を行い、学生の参加を呼びかけ、のべ10人の学生の参加があった。

<観光交流の拡大に向けた取り組み>

東京都内のエージェント、宮城県、福島県、秋田県の観光施設にて観光PR活動を行った。

新庄まつりを中心として、岐阜県大垣市、栃木県鹿沼市、青森県八戸市、秋田県仙北市と観光交流を行った。

このほか、令和7年度に新庄まつりが270年を迎えるため、新庄まつり270年祭の記念行事について検討した。

<参考>新庄まつりは毎年開催日が固定(8/24～26の3日間)・新庄まつり人出 R5 38万人 R6 42万人(4万人増)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	山車人形師と連絡が途絶える問題が生じ、その後解決に向かっているが、現在は1人のみの体制であるため、将来的にも安定した人形の供給がなされる体制づくりが必要。そのほか、新庄まつり百年の大計・第4期計画に基づき諸課題(担い手不足、若連の財政課題、熱中症対策)の解決に向け取り組みを進める。

状況を示す写真や資料等

■宵まつり山車行列(宵まつり 8/24)



■神輿渡御行列(本まつり 8/25)



■まつりを盛り上げる囃子



■奉納鹿子踊(後まつり 8/26)



評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
文化財等保存団体支援事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	各事業開始年度～令和14年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	各地域に伝承される有形・無形の文化財等の保存や継承活動を行う団体などに支援を行い、郷土の貴重な文化や景観などの保護と継承を図る。また、団体などへの支援の充実を図るため、新庄ふるさと歴史センターを拠点とする機能の強化を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
○団体等への支援 ・市指定史跡(2件)について地域団体と協定を締結し、適切な維持管理に努めた。(2件 60,000円) ・国指定重要文化財八幡神社本殿拝殿の所有者が行う管理事業に対し、市文化財保護事業補助金を交付(1件 30,000円) ・市指定無形民俗文化財「新庄亀綾織」の技術保持団体に対し運営補助金300,000円を交付 ・国指定重要無形民俗文化財「新庄まつりの山車行事」の保持団体に対し運営補助金689,700円を交付 ・国指定名勝「おくのほそ道の風景地本合海」を維持管理する地域団体に対し負担金110,000円を交付			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		新庄ふるさと歴史センターの設備復旧及び収蔵品の保全について中長期的に取り組む必要がある。県や関係機関と連携しながら進めていくこととなる。	
状況を示す写真や資料等			
■国指定名勝おくのほそ道の風景地本合海環境整備活動(6月)  			
■新庄ふるさと歴史センター被災状況(7月26日)  			

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
無形民俗文化財等調査記録情報発信事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和5年度～令和14年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	無形民俗文化財や未指定の地域伝統行事について、記録映像や調査記録をアーカイブ(保存・保管)し、広く情報発信することにより、地域住民や市民の認識向上を図り、郷土の貴重な伝統行事の保護と継承を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和6年度は、地域伝統行事等の調査記録作業を進めた。 ・新庄ふるさと歴史センター企画展「祈りの形」において、鳥越神楽、萩野・仁田山鹿子踊、サンゲサンゲ、山の神の勧進の資料を展示した。(6月) ・国選定記録選択無形民俗文化財「山の神の勧進」(萩野地区)について、映像及び写真資料として記録。(12月) ・新庄民話の会との協働で「みちのく民話まつり」口演の様子を映像及び写真資料として記録。(7月、10月) ・「隠明寺風」について保存会と市の共催事業として「新庄風フェスティバル」を開催。報道機関の取材、新聞等での広報により情報発信された。(6月) (「隠明寺ダコの版木」が県指定有形民俗文化財となっている)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	映像記録の活用方法の検討 各団体の課題調査と支援方策の検討		
状況を示す写真や資料等			
■ふるさと歴史センター企画展「祈りの形」(6月8日～7月15日)		■新庄風フェスティバル(6月18)	
			
■みちのく民話まつり・夏語り(7月7日、10月19日実施)			
			

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和6年度
		現在の状況
新庄開府400年記念事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和4年度～令和7年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 新庄開府400年を契機に、本市の歴史や文化、まちづくりを振り返り、郷土への愛着と誇りを高め、さらなる発展につなげることを目的に「新庄開府400年記念事業実行委員会」を設立し、記念事業を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・令和6年度実施事業に係る実行委員会総会を開催。(6月)
- ・新庄の魅力を発信する「アンバサダー」の募集(令和7年1月時点 認定者:個人6名、3団体)
- ・市内小・中学校および義務教育学校が実施する「ふるさと探究学習」への助成(6月～ 申請件数9校)
- ・本市の歴史文化を再確認し、令和5年2月に策定した「新庄市歴史的風致維持向上計画」に基づくまちづくりを推進するため、第2回「歴史まちづくり推進シンポジウム」を開催。(7月 参加者:70名)
- ・松竹特別歌舞伎開催(7月 来場者:830名)
- ・総合アドバイザー今村翔吾氏との連携による「ダンスプロジェクト羽州ぼろ鳶組」始動(7月～ 令和7年1月時点 小学生21名、中学生46名、高校生2名 計69名参加)
- ・市民プロジェクトチーム提案事業「ダンボール甲冑製作ワークショップ」(11月 小・中学生 約10名参加)
- ・広報しんじょう特集記事(5、7、9、11、12月号に掲載)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- ☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

市内外への周知広報の強化によるさらなる機運醸成。
 市民提案事業を含め、年間を通じた事業展開が必要。

状況を示す写真や資料等

■市報特集記事



■歴史まちづくり推進シンポジウム(7月13日実施)



■ダンスプロジェクト(7月～)



■ダンボール甲冑製作WS(11/9)



評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
小中学生の歴史学習推進事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	各事業開始年度～令和14年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	市内の小中学校・義務教育学校における総合的な学習などの一環として、地域の伝統行事や伝統工芸などの有形・無形の文化財等の学習を行い、郷土の貴重な歴史や文化について理解を深める。 また、社会科副読本などを整備・充実することで、効果的な歴史学習を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・市内小学校の総合学習での案内・解説(7/10 日新小学校 約80名) ・市内中学校の総合学習への協力(7/30～8/1 新庄中学校 2名、11/1 日新中学校 3名) ・市内義務教育学校の総合学習での案内・解説・講話(7/19 萩野学園 44名) ・明倫学園「明倫フォーラム」での新庄藩の歴史に関する講話(11/22 対象:5～9年生・保護者) ・新庄小学校歴史クラブの活動での案内・解説(7月～10月 6回 各回児童8名参加) ・ふるさと歴史センターでの市内中学校職場体験学習の受入れ(9/4～9/5 新庄中学校 生徒2名) (その他:県立東北農林専門職大学、同大付属農林大学校、県外大学の学生への本市の歴史・文化財に関する講話、現地解説など実施)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	これまでの学習内容のマニュアル化、今後の学習や出前講座などで活用する。 歴史センター館内または地域のボランティアガイドの活用		
状況を示す写真や資料等			
■市内小学生の歴史学習 (左上:市内小学校クラブ活動への協力 隠明寺風保存会と連携し講座 右上:ふるさと歴史センター内での活動状況)			
			
			

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

新庄市-13

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
城下町周遊まち歩き推進事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和4年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	地域に点在する歴史的資源の周遊を促すため、市民や来訪者が史跡や歴史的建造物等を巡るマップの作成やアプリの導入を図るとともに、標柱や案内表示板の整備を行う。また、レンタサイクルや循環バス、観光タクシーなどの二次交通の充実を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・令和5年度に改修した旧町名の標柱、案内板を活用した周遊まち歩きの推進に向けて、「新庄城下まちあるき絵図」を作成・配布した。また、歴史解説動画(ショート・ロング各3本)を制作し、標柱の二次元コードや市公式ホームページから閲覧できるようにした。 ・新庄開府400年記念事業と連携し、周遊型アプリを制作し、標柱を巡る「謎解きスタンプラリー・戸沢家の秘宝」を実施した。謎解きラリーのパンフレット及び「まちあるき絵図」については市内の小中学生全員に配布し、夏休み前後(7月23日～9月23日)を対象期間として実施。地元企業や商店など7店舗にも協賛いただいた。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		新庄開府400年記念事業と連携し、今後も標柱や「まちあるき絵図」を活用した取組を継続し、市内に点在する歴史資源への回遊性の向上を推進する。二次交通の拡充については、令和5年度まで実施した周遊バスの運行を見直し、ワンコインタクシーの実証実験を行う。	
状況を示す写真や資料等			
■江戸時代の城下絵図に現代の地図を重ねたクリアファイルと「まちあるき絵図」  ■城下の歴史資源を掲載したガイドブック  ■「謎解きスタンプラリー・戸沢家の秘宝」(紙版・WEB版)  ■最上地域史研究会の三浦氏の解説による歴史動画を作成し配信  ▲令和7年1月までの閲覧件数: 約 3,200件  ◀「謎解きスタンプラリー」の特典として新庄信用金庫が作成・配布した戸沢政盛公の武将カード			

評価軸③-13

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
観光地環境美化推進事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成28年度～令和14年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	市内に点在する歴史的建造物や史跡などについて、来訪者が快適に見学できるよう、定期的に清掃や草刈り、除雪作業などの環境美化を行う。また、イベント開催時の案内誘導やごみの回収などを行い、来訪者のおもてなしを行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
年間を通じ草刈り作業等を行い、観光地の環境整備を行った。 施設数:13カ所 活動延べ日数:115日(内、イベント開催時の衛生管理 4日)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	引き続き、適切に環境整備を実施する		
状況を示す写真や資料等			
■カド焼まつり業務  ■戸沢家墓所(草刈り)  ■一里塚(草刈り)  ■芭蕉乗船の地(パトロール活動) 			

評価軸③-14

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
歴史案内人養成事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和5年度～令和14年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載 している内容	市民や来訪者に対して、歴史的資源や文化を分かりやすく案内ができる人材を養成するため、講習会や現地視察などの研修を行う。また、外国人観光客への対応として、多言語に対応したガイドの育成や派遣を行う団体を支援する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
ガイド研修に参加し、新庄市に訪れた団体観光客へ市内旧跡のガイドを実施した。 <実績>ガイド研修 2回参加 ガイド登録者数: 15名 活動日数: 23日(R6.4～12現在) 案内した観光客数134人(R6.4～12現在) 多言語ガイド(おもてなしレディース)研修 登録者数10名 研修会6回開催			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	ボランティアガイドの高齢化が進んでいるため新規加入者の確保が必要である。名所旧跡の知識の継承が課題。		
状況を示す写真や資料等			

■ガイド研修(戸沢家墓所)



■観光案内(護国神社)



■ガイド研修(鳥越八幡神社)



■おもてなしレディースガイド研修



評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
文化財の保存、文化財の修理事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	所有者や管理者、保存団体などと連携し、適切な保存管理に努めていく。 指定等文化財を維持するための修理及び整備にあたっては、各種法令に基づくとともに、専門家の指導を受け、適切に対応する。 市民向けに改修現場見学会を開催するなど、修理の材料や過程、伝統技法に対する理解を深める機会の創出に努める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
○文化財の保存 文化財保護審議会を3月に開催予定。指定文化財候補について審議予定。 ○文化財の修理 史跡新庄藩主戸沢家墓所(桂嶽寺・7号棟)保存修理事業 ※再掲 屋根葺替の実施設計を実施。令和7年度に工事を実施予定。 参道については、今後あらためて文化庁、所有者等と別途協議のうえ対応方針を決定する。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	・文化財の維持管理を行うための資金調達。特に建造物の保存修理事業は、所有者(管理者)負担が多額になるため、所有者、関係者等との合意形成を図る必要がある。 ・文化財を指定後、その価値を後世にいかに伝えていくか、保存と活用の適切なバランスを考慮する必要がある。 ・今後の文化財の整備等に向け調査等に係る、考古分野の専門的な助言指導が必要である。		
状況を示す写真や資料等			
■史跡新庄藩主戸沢家墓所(桂嶽寺・7号棟)保存修理事業(現況)   			

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
文化財の周辺環境整備・防災に関する取り組み			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財の保存活用を図るうえで、その周辺環境と一体的に整備することが必要である。市民や来訪者が歴史を感じながらまち歩きができる環境整備を行うものとする。 重要文化財(建造物)等防災施設整備事業指針及び新庄市文化財防災マニュアルに基づき、市や文化財の所有者、管理者は日ごろから高い防災意識を持って保存管理に努めていく必要がある。個別の有形文化財ごとに防災対策を検討するなど、被災の予防やリスクの軽減を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
○文化財の周辺環境整備 国指定名勝「おくのほそ道の風景地本合海」(市指定史跡「八向楯跡」含む)の環境整備について、地元団体との協働事業として枝払い、登山道整備を実施(6月) ※文化財等保存団体支援事業の再掲 ○文化財の防災 ①豪雨災害で被災した市指定有形民俗文化財「雪国の民具」の保全作業 7月の豪雨災害により新庄ふるさと歴史センターで所蔵する約3,000点が水損。ボランティアの協力により水損民具の保全作業(移動・洗浄・乾燥・除菌)を実施(8月～11月) ②国指定文化財の消防設備検査(1月) ③豪雨災害で被災した新庄ふるさと歴史センターの復旧対応(7月～継続中)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	文化財の所有者、管理者、地域、関係機関と連携して引き続き取り組んでいく。 特に、「雪国の民具」については、応急処置は凡そ終了したものの、今後気温上昇に伴いカビの再発生が懸念される。ふるさと歴史センターの設備の復旧作業と並行して民具および空間の除菌作業の実施を検討する必要がある。		
状況を示す写真や資料等			
■国指定名勝「おくのほそ道の風景地(本合海)」 環境整備活動(6月) ※再掲		■市内文化財消防設備検査(1月28日)	
			
■浸水文化財活保全作業(8～11月)		■新庄ふるさと歴史センター復旧対応 (上:仮設電源 下:地下展示室破損状況)	
			
			

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

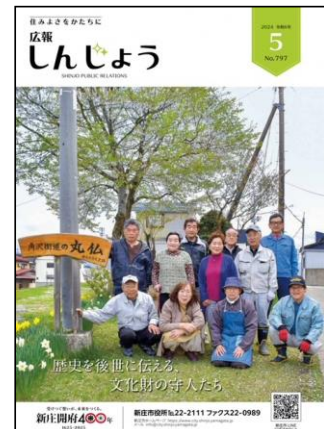
評価対象年度		令和6年度
項目		現在の状況
文化財の普及啓発に関する取り組み		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
計画に記載している内容	地域の歴史や文化に特化したガイドブックの作成や案内板・説明板の設置により積極的な普及啓発に努める。学校教育現場における伝統行事等を学ぶ体験学習、生涯学習としての地域史講座や史跡めぐり、歴史案内人養成講座の開催などにより幅広い年齢層への普及啓発を行う。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
○体験学習・講座等 新庄藩校明倫堂講座(R6.5～R6.11 計7回 受講生人数60名)※地域の歴史・文化生涯学習推進事業の再掲 新庄ふるさと歴史センター企画展(～7月 計3回実施 入館者数3,220名 ※4/1～7/25) 新庄ふるさと歴史センター特別観覧日(入館者全員無料)(5/5 110名観覧)		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	地域団体や小中学校と連携して引き続き様々な方法で普及啓発に取り組んでいく。	
状況を示す写真や資料等		

状況を示す写真や資料等

■新庄藩校明倫堂講座(座学形式の講座・野外研修)



■広報しんじょう5月号特集記事



■新庄ふるさと歴史センター企画展



評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	評価対象年度	
	年月日	令和6年度 掲載紙等
国際クルーズ船の乗客が新庄ふるさと歴史センターを訪問	R6.4.11(木)	山形新聞
新庄市瑞雲院、秘仏のご開帳と大般若会	R6.4.14(火)	山形新聞
ふるさとの文化財 国登録有形文化財「旧農林省蚕糸試験場新庄支場」	R6.6.3(月)	山形新聞
八向中、地域おこしグループと連携しパネル展 本合海地区の歴史など紹介	R6.7.13(土)	山形新聞
新庄開府400年記念、高校生チーム「WATS」が映画製作中	R6.7.15(月)	山形新聞
新庄開府400年記念で街盛り上げへ、市と新庄信金がガイドブック制作	R6.7.18(木)	山形新聞
新庄開府400年記念事業「歴史まちづくり推進シンポ」文化を次代へ	R6.7.18(木)	山形新聞
新庄まつり、無事開幕 復興への願い、山車に乗せ	R6.8.25(日)	山形新聞
新庄まつりの本まつり 神輿渡御行列、妙技も披露	R6.8.26(月)	山形新聞
新庄まつりの後まつり 締めくくりの鹿子踊を披露	R6.8.27(火)	山形新聞
ふるさとの文化財 国登録有形文化財「旧農林省積雪地方農村経済調査所庁舎」	R6.9.16(月)	山形新聞
大雨被災文化財救う	R6.9.21(土)	読売新聞
萩野学園で新庄まつりの授業 山車作りへの熱量、すごい	R6.10.2(水)	山形新聞
みちのく民話まつり いろいろ囲み、じっくり聴き入る	R6.10.23(水)	山形新聞
最上地区民族芸能フェス 招待含む6団体が舞や神楽を披露	R6.11.12(火)	山形新聞
豪雨災害“地域の宝”文化財を守る！～復旧にかける職員の思いは～	R6.11.15(金)	NHK山形放送局
升形小児童、地元の山城歩き校外学習 郷土史家が講師、地域理解深め愛着育む	R6.11.16(土)	山形新聞
地元出身の芸工大生がイベント 山車の廃材をアートに変身、制作通し地域の魅力体感	R6.11.23(土)	山形新聞
新庄まつりの歴史、絵本で伝える 住民有志が企画「郷土愛醸成に」	R6.12.28(土)	山形新聞
ミニチュア山車の達人に弟子入りした高校生が「新庄まつり」の魅力を発表	R7.1.24(金)	さくらんぼテレビ
子どもたちに郷土の歴史伝える 賢君・戸沢政盛の絵本	R7.1.28(火)	山形新聞

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史まちづくりに関する各種事業の取組み等が、数多くのマスコミ報道で取り上げられた。特に、「新庄まつり」は市内外の関心が高くマスコミを通じ広く情報発信することができた。また、「歴史まちづくりシンポジウム」や国登録有形文化財が新聞報道で取り上げられ、計画推進に向け、市民の機運向上に繋がった。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
■計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

■大盛況だった「新庄まつり」



■直木賞作家である今村翔吾氏を迎え開催した「歴史まちづくりシンポジウム」では多くの市民が集まった。(7月13日開催)



評価対象年度 令和6年度

項目

市民の歴史的風致の認識向上

計画に記載している内容 市民が歴史まちづくりについての理解を深めるため、地域住民や地元団体と連携・協力しながら、本市の歴史や文化、歴史的風致に関する講座などを開催し、市民の認識向上を図る。また、本市の歴史や文化について、市民に分かりやすく伝えるため、ホームページや市報などを活用しながら効果的な情報発信を行っていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

・計画策定を受け、市報での特集記事の掲載や、「歴まちカード」の周知など、情報発信に努めた。
 ・令和6年7月には「歴史まちづくり推進シンポジウム」を開催し、パネリスト、有識者、市民が、今後の歴史まちづくりの取り組みを話し合うなど歴史的風致の維持向上が図られた。
 ・本市は、令和7年に新庄開府400年を迎える。上記シンポジウムをそのプレイベントと位置付け、また、市報で新庄藩の歴史を学ぶ連載を行うこと等の取り組みにより、開府400年に向け市民の機運醸成を図ることができた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり

■計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

■広報しんじょう(令和6年5月号)での特集記事
 歴まち計画にも記載されている新庄市の文化財を紹介

■「歴史まちづくり推進シンポジウム」を開催
 オブザーバーに直木賞作家の今村翔吾氏を迎え、本市の歴史まちづくりを考える貴重な機会となった



回覧

歴史／まちづくり 推進シンポジウム

～新庄開府400年
からつなげる、人づくり、まちづくり～

第1部・基調講演

歴史を伝承するまちづくり
とその未来

講師 後藤 治氏(学校法人
工学院大学理事長)
東京大学工学部建築学科卒業。文化庁文化財
保護部建築文化財調査官から工学院大学・
建設学部教授を経て、2017年に同大学の理事長に
就任。歴史的建造物や街並みの保存・修復の深い造詣
を持ち、文化庁在籍時に登録有形文化財の登録制度を創設。新庄市エコロジーガーデンの
文化財登録や保存活用計画策定に尽力。令和5年2月に策定した「新庄市歴史的風致維持向上計画」
推進協議会においては会長を務め、推進後の進捗管理にも関わる。その他、携手市歴史的風致維持
向上協議会会長等も務める。

第2部・パネルディスカッション

新庄開府400年、豊かな歴史文化を紡ぐ人々の活動とその先にあるもの

コーディネーター 後藤 治氏(学校法人工学院大学理事長)

オブザーバー 今村 翔吾氏(新庄開府400年記念事業総合アドバイザー/作家)

パネリスト 軽部 望氏(雪蘭の会会長/新庄市社会教育委員)
細谷 誠二氏(鳥越神楽恵蔵・保存会会長)
安彦 栄美氏(communeAOMUSHI株式会社取締役)

7/13(土)

13:30～(開場 12:45)

新庄市民プラザ・大ホール

参加無料

事前の申込みが必要で
お申込みは下記まで
申込期限: 7月9日(火)

新庄開府400年記念事業実行委員会 TEL: 0233-22-2188 FAX: 0233-23-3734
 (主管 新庄ふるさと歴史センター) E-mail: furusato@ls.city.shinjo.yamagata.jp

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和6年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称 令和6年度第2回新庄市歴史的風致維持向上計画推進協議会 会議等の開催日時：令和7年2月24日(月)	
(コメントの概要) 【計画全般】 ・計画については概ね順調に進んでいる。 ・市民の認識向上を図るため、SNSの活用やネット媒体による広報について、より効果的な手法を探り、実践していく必要がある。 【各評価軸についての主なコメント】 ■P6 評価軸③ー4 最上公園(新庄城址)修景整備事業 ・近年、豪雨災害が激甚化していることを踏まえ、これから最上公園周辺の整備を進めるうえで豪雨対策も講じていく必要がある。 ・そのような防災対策を実施する際には、景観維持向上に繋げる視点が重要である。 ■P8 評価軸③ー6 新庄まつり振興事業 ・今年度は、新庄まつりの山車に飾る人形を手配できかねない状況に陥った。将来的なことも見据え人形の安定的な供給を実現するための仕組みづくりが重要である。 ■P9 評価軸③ー7 文化財等保存団体支援事業 ・被災した新庄ふるさと歴史センターの収蔵品を雪の里情報館に移管するのではなく、新庄ふるさと歴史センターの再整備と展示方法の見直しを検討すべきである。 ■P10 評価軸③ー8 無形民俗文化財等調査記録情報発信事業 ・40年ほど前に16mmフィルムで撮影した萩野仁田山鹿子踊りが新庄ふるさと歴史センターに収蔵されている。後継者への伝統継承に活用して欲しい。 ■P12 評価軸③ー10 小中学生の歴史学習推進事業 ■P13 評価軸③ー11 地域の歴史・文化生涯学習推進事業 ■P14 評価軸③ー12 城下町周遊まち歩き推進事業 ・P12、13、P14など、市民向けと来訪者向けの事業を有機的に結合させることで相乗効果を得ることができる。インバウンド向けモニターツアーを地域の子どもの文化継承の事業と組み合わせることで、地域の子どもたちが自分たちの文化を継承することの重要性を認識できるようになるだろう。 (今後の対応方針) ・令和6年の豪雨災害により被災した新庄ふるさと歴史センターの復旧が急務である。建物や収蔵している有形民俗文化財にもカビが発生し、その除去を実施したが、これから温度が上昇しカビが再発生する可能性が高い。文化財を適切に管理できるような態勢を整えていきたい。 ・令和7年は、新庄開府400年の年である。市民の機運醸成の絶好の機会ととらえ、市民と一体となった歴史まちづくりを展開していく。	